

## 手話対策部報告

### 令和5年11月12日(日) 通訳者講師研修会 参加者:22名

- ・午前の部:一般社団法人 奈良県聴覚障害者協会理事長 北田知子氏講演  
講義テーマ「通訳者養成講座の目的・手話講師としての心構え」

北田氏は、あるろう者から「あなたはろう者か?難聴者か?」と聞かれ、どこが違うのか答えられませんでした。

聞こえないことをどのように受け止めていくのかという

「障害受容」や「障害認識」に悩み、「ろう者のアイデンティティ」について考えるようになりました。その頃から、ろうあ運動やろう教育に関わるようになり、現在に至ります。北田氏は、自身の経験を講座に取り入れ、どんな通訳者に育ってほしいかを頭に入れながら

受講生に伝えて続けています。講師の資質向上のためには、講師同士は対等でお互いに評価する目を鍛え、批判と批評、非難の違いを理解するようにとおっしゃっていました。奈良県は「すてきな講師を目指して」講師団の絆を深めるために講師団の5か条を守り、講師の皆さんで支え合っています。愛知県も「すてきな講師を目指して」いきたいなと思いました。



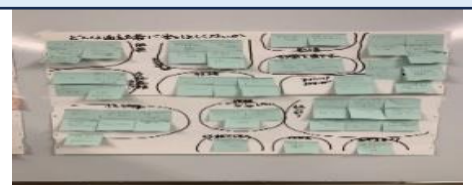
- ・午後の部:「どんな通訳者に来て欲しいか」「どんな通訳者に来て欲しくないか」  
その理由や改善方法など2グループに分かれて話し合いました。

#### 「どんな通訳者に来て欲しいか」



参加者の皆さんに、  
思いのまま、付箋に  
書いていただきました。

#### 「どんな通訳者に来て欲しくないか」



例)読み取りができる通訳者に来て欲しい。

なぜ読み取りができているのか、  
考えられる理由は・・・

- :ろう者の背景を理解している人
- :何のために通訳するのか目的をしっかり持っている人
- :聞こえない人と対等に接している人
- :常にろうあ運動の視点を持ち、社会の理解のなさやろう者にとって不利益な環境や社会を変えようという気持ちを持っている人
- :通訳の内容を事前に下調べしている人
- :自分の課題や反省点を検討し、次につなげようとしている人
- :手話表現が分からない所はろう者にきちんと聞くことができている人

例)読み取りができない通訳者は来て欲しくない。

なぜ読み取れないのか、  
考えられる理由は・・・

- :ろう者の暮らしや環境を視野に入れていない人
- :通訳を終えた後の自己反省がない人
- :日ごろからサークルやろう協の行事参加がない人
- :聞こえない人を主体性として考えない人
- :ろう者の話が分からないのに分かったふりしている人
- :自分の考えを盛ったり削ったりして、言い訳している人
- :ろう者をバカにしたり見下している人
- :周囲の考えや意見に流されている人
- :いつも自身が無表情のため、ろう者の表情が分からない人
- :試験合格しても技術の研鑽がない人
- :普段から自身の表現があいまいの人
- :日本語に合わせた手話表現しか知らない人

「聞こえない人の生活に関わる通訳者を育てる講師」として講師同士の情報共有、支え合いが必要だと分かりました。講師の指導技術研鑽の場作り、通訳者講師不足の解消、講師の指導環境向上も含めて、講師団の立ち上げも視野に入れていきます。

令和6年度も通訳者講師研修会を開催する予定です。